



2008 平成20年 11

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性課へ

発行 ● 狛江市地域活性課  
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5  
☎ 3430-1111 FAX3430-6870  
Email=wacco@city.komae.lg.jp  
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press  
〒201-0012 狛江市中和泉 3-2-16  
プランツベルツ 201  
☎ 3430-6617 FAX3430-6743  
Email=wacco@

# 狛江の農業の健在ぶり示す品評会や宝船

## 実りの秋

狛江が農村地帯だったころ、農産物を収穫する秋は、忙しさの一方で、喜びの季節でもあった。農産物品評会は明治42（1909）年に



初の宝船 1982年

市民まつり会場の旧第一小学校庭に展示された宝船。このときは2台製作された

狛江村（当時）で初めて開かれ、大正時代に狛江だけでなく各地で盛んに行われ、農家にとって、その年の労働の成果を競い、名誉を得る特別の行事であった。しかし、戦争の影響で中断、戦後の昭和25年に食糧統制の解除に合わせて青年団の手で復活、文化祭と合わせて催され、年々盛んになった。現在も市民まつりに合わせて催されており、数百点にのぼる野菜や果物が並び、審査が行われる。都市化によって農地も農家も減ったとはいえ、質量とも昔と変わることなく、見学の市民に農家の心意気を伝えている。宝船も第6回の市民まつりから始まり、まつりの呼び物のひとつとして人気を集めている。展示の後、宝分けとして野菜や果物の配布が行われ、長い行列ができる。

### 青年団が復活させた品評会

小町達男さん（69歳・和泉本町）の話  
実家が農家だったので、家を継ぐつもりで農業高校へ進学しました。ところが千町耕地にあった田んぼが多摩川住宅の建設でなくなることになり、卒業して昭和33年に狛江町農業協同組合（当時）の職員になりました。私が入ったころは組合員も多くて、農産物品評会も盛んでした。昭和24年に生鮮野菜の統制が撤廃されて、狛江でも野菜づくりが盛んになり、

翌年から青年団が中心になって品評会が復活しました。事故があるといけないというので、青年団の役員がその夜は会場に泊り込んだそうです。30年代半ばに農協主催に変わり、「勤労感謝の日」の前後に開かれました。会場には狛江第一小学校の教室3つ分の仕切りを抜いて使いました。500点ぐらい出品されましたが、野菜だけでなく、米や麦などの穀類もあり、イモもいろんな種類がありました。特等になるのはすごくうれしいことでした。出品した野菜は品評会の後で販売されるので、見に来る人も熱心でした。都の経済連が開いた、卸売市場に出すための技と中に入れる野菜の品質を競う荷造り品評会に狛江から参加する人もいま

### 農産物品評会 1962年



旧第一小学校の教室で開かれた農協主催の品評会。子どもたちも見学した

した。4kgと10kgの部があったのですが、中に入れる野菜の質がそろってはいけなくてはいけなくて、みんなけっこう苦労しました。農協には平成14年まで勤め、退職後は農業をやっています。市の品評会に出品するほか、都の品評会も見に行っていますが、新しい野菜や流行、栽培技術もわかり、参考になります。



授賞式 1962年  
公民館で行われた表彰式

### 苦労した初の宝船作り

小川健一さん（68歳・猪方）の話  
狛江市農協（当時）の青壮年部の部長をやっていた大久保和男さん（故人）が、都の農産物品評会で宝船を見たのがきっかけで、狛江の市民まつりでもやろうと組合員に呼びかけて、昭和57年に市民まつりの時に開かれる農業祭に出すことになりました。中和泉の大久保さんの家に10数人が集まり、その指導で2台作りました。野菜は組合員に協力してもらいましたが、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリーなどの軸は、普通は根元から短く切るので、車から落ちないように長く切ってもらいました。白菜のシンに食紅で色をつ

けて飾ったりもしました。初めてなので勝手がわからず、みんなでワイワイやりながら、半日がかりでようやく完成しました。その後も毎年作りましたが、野菜が重いので、車のスプリングがダメにならないように、パレードの前までジャッキで持ち上げたりもしました。私が蔬菜部長になったころは、宝船に飾る稲穂がなくて、毎年バケツでイネを栽培しました。事前に農家に呼びかけて野菜を出してもらうのですが、年によっては、野菜の種類がかたよったり、不作で



初の宝船 1982年

完成した狛江初の宝船。2台作られた  
集まらなかつたりで苦労しました。品評会もあるので人手の確保にも頭を痛めました。市民まつりの呼び物として人気があるので励みになっています。

### 宝船の製作 1996年



1996年

### パレードする宝船 1996年



市民まつりで田中橋付近をパレードする宝船

### トラクター 1996年



花卉部会のトラクターもパレードに参加

### 農産物品評会 2007年

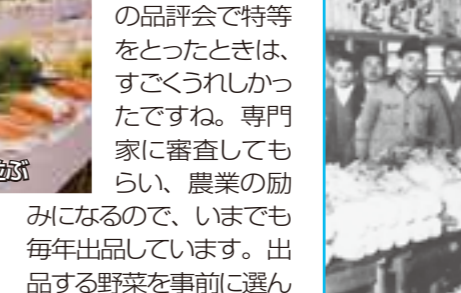


品評会にはいま多くの野菜や果物が並び

### 夜明け前に収穫して出品

飯田清孝さん（55歳・中和泉）の話  
32歳で脱サラして農家を継ぎました。子どものころから家を手伝っていましたが、大学は理工学部で、仕事もコンピューター関係だったので、初めのうちは苦労しま

### 戦後初の農産物品評会 1950年

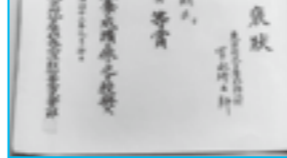


青年団主催で開かれた戦後初の品評会

した。農業を始めて7年目に市の品評会で特等をとったときは、すごくうれしかったですね。専門家に審査してもらい、農業の励みになるので、いまでも毎年出品しています。出品する野菜を事前に選んでおくのですが、当日朝に会場へ搬入するために、夜明け前のまっ暗な畑で手探りで収穫するのがたいへんです。特に根菜類などは掘り出してみると思ったほど

でなかつたりすることも多いです。10種類以上の野菜を出しますが、それぞれ数十点のなかから選びます。品質のそろったものを決まった数だけそろえるのは、農家にとってたいへんなことです。毎年、品評会に500点ぐらい出ますが、これだけの数が出ることは、狛江の農業が盛んで、熱心だということの表れと言えます。

### 農産物品評会 1991年



初の品評会の賞状  
明治42（1909）年の第1回品評会の賞状

### 農産物品評会 1991年



第一小学校体育館で開かれ、多くの市民が詰めかけた

写真提供・取材協力=小町達男、小川健一、飯田清孝、富永和身、田代實（故人）、マインズ農業協同組合（順不同・敬称略）資料=「狛江市史」（狛江市）、「狛江市農業協同組合史」（狛江市農業協同組合）、「50年のあゆみ」（マインズ農業協同組合狛江地区青壮年部）